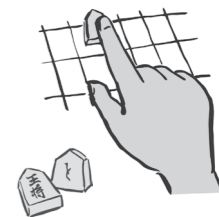


# イノベーションを起こす力

～未来を想像し、イノベーションを起こしていくために～

円高、欧州危機、日中間問題……。企業経営に次々と難問が浮上するなか、突破口となるイノベーションが渴望されている。そこで日経ビジネスイノベーションフォーラムでは、先を読む力、想像力、決断力などが勝敗を決める将棋の世界に、現状打開のヒントを求めてみた（共催・リコー、日本将棋連盟）。日本企業が再び活力を取り戻すために、打つべき次の一手とは――。



## 実戦から真の実力 変化への対応力も



日本将棋連盟棋士  
王位・王座・棋聖  
羽生 善治氏

### 読めない局面こそ真剣勝負の場で 環境変化への対応から革新起きる

▲羽生氏

梅田氏▼

羽生 善治 環境変化への対応から革新起きる。読めない局面こそ真剣勝負の場である。将棋の世界ではよくあります。梅田 望夫 プロ棋士は、いま160人ほどいて、半数以上が羽生さんより若い人たち。彼らは研究会などに熱心で、データを活用した序盤の研究などが急速に進みました。

羽生 先が見えない時代といわれますが、見えないことが普通だと思うようにしています。そういう中で何か希望を見いだしたいと思っています。

梅田 望夫 シリコンバレーにいて「イノベーション」とは環境変化への対応」という気がします。羽生さんは将棋界の環境激変に対して、ご自身のように変化してきたのですか。

### 特選対局

#### 目の前でプロが対局

第2期リコー杯女流王座戦（特別協力・日本経済新聞社）の五番勝負第1局が3日後に迫った10月16日のこのフォーラムでは、加藤桃子女流王座（17）と室谷由紀女流初段（19）による特選対局が実現した。解説役の羽生三冠が「将棋イベント以外での対局や、対局者のすぐ脇での解説は珍しい。これもイノベーションの一つ」と会場を沸かせた。「プロの将棋を間近でみるのははじめて」という声も多く聞かれ、多くの来場者を喜ばせた。

#### 初防衛に王手 リコー杯女流王座戦

女流王座戦第1局は、加藤王座が挑戦者の本田小百合女流三段（34）を総手数わず54手で下し、初防衛に好スタートを切った。加藤王座は第2局も連勝し、初防衛に王手をかけた。第3局は10日（土）に行われる。



女流王座  
加藤 桃子さん



女流初段  
室谷 由紀さん

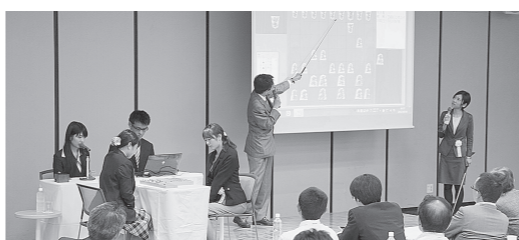


リコー社外取締役  
梅田 望夫氏

梅田 望夫 シリコンバレーにいて「イノベーション」とは環境変化への対応」という気がします。羽生さんは将棋界の環境激変に対して、ご自身のように変化してきたのですか。



女流四段  
矢内 理絵子さん



### 対談

#### 新しい一手を生み出すために



日本将棋連盟会長  
米長 邦雄氏

きたところ、近年になって「プロより強くなったから挑戦したい」と。勝負と真理を追究するプロ棋士として逃げるわけにいきません。男女プロ棋士がコンピュータと対戦して1勝1敗となり、今年1月この米長

の8年は連盟の運営で大変でした。そこでまず考えたのは「敵を知り己を知れば、百戦危うからず」。自宅に高額な高性能パソコンを買って「ぼんちゃん」と対戦してみると、明らかに私より

中の秘策が初手6二玉でした。この一手はコンピュータ相手の最善手だと今も信じています。あとはジワリ、ジワリと位で押していく。しかしそれは肉を切らせて骨を断つという米長流の将棋ではない。つい

来春の第2回電王戦では5人対5台で戦います。本人の骨髄、内面から出たものこそ、本人の実力です。それは実戦を通じてこそ培われるものです。

### 人間の内面から出る力で戦う

コンピュータ将棋ソフトの開発が始まって約40年。日本将棋連盟は人材と資金を出して応援し続けて

旧名人にお鉢が回ってきました。名付けて「第1回将棋電王戦」。相手は「ボンクラーズ」。名前はおかしいが、渡辺明電王が下した「ボナンザ」を改良した強敵です。しかもこの旧名人は60歳で引退し、今日まで

ここでどうしたか。解が2つ以上ある漠然とした世界に持ち込み、正面から衝突しない。そのための秘策は「見つつ観ざりき」。晩年に失明した白秋が「観る」

角交換に出て、そこから戦いが始まった瞬間に私の負けが決まりました。この着想の裏には北原白秋の和歌があります。「か黒葉（かぐろば）にしづみて匂う 夏霞 若かる我は 見つつ観ざりき」。晩年に失明した白秋が「観る」

### 講演

#### 「コンピューターとの戦い」